

米中間選挙と米国株の経験則とは？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 中間選挙後の株価動向は良好

米国では11月8日に中間選挙が行なわれます。バイデン政権のこれまでの約2年間の実績がどのように評価されるのか、また選挙結果を受け、2024年の大統領選はどうなるのか、投資家の関心は高いとみられます。今回は米中間選挙と米国株の経験則について検証します。

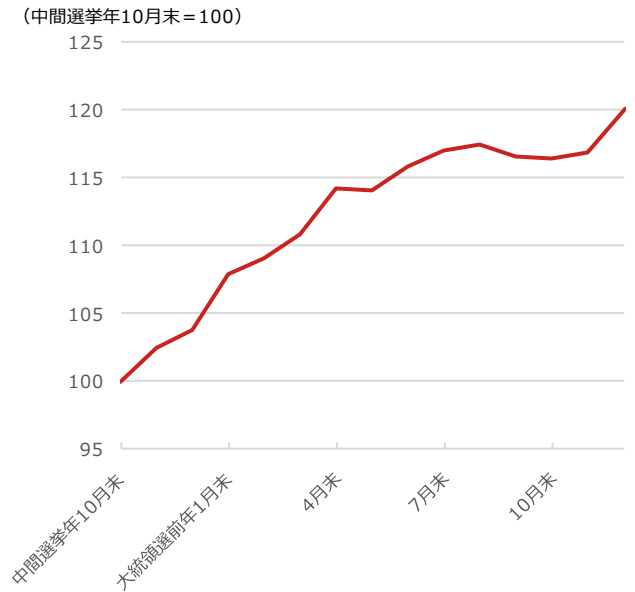
戦後、これまで19回の米中間選挙が行なわれてきました。米中間選挙年の10月末から翌年（大統領選前年）末までのS&P500種株価指数をみると、19回すべてが上昇という結果となっており、同期間の平均上昇率は20%と、パフォーマンスは好調でした（右上図）。米中間選挙の結果を踏まえ、その2年後の米大統領選に向けて、有権者を意識した政策が打ち出されるとの期待が、こうした株価上昇をサポートしているのかもしれません。

ポイント② 米インフレとFRBの金融政策が焦点

では、今回も経験則に沿った動きが期待できるのでしょうか。FRB（米連邦準備制度理事会）をはじめ、各中央銀行がインフレ抑制に向け積極的な利上げを行っており、こうした動きが世界的な景気後退や信用不安につながり、株価が下落すると懸念が強いのが現状です（右下図）。

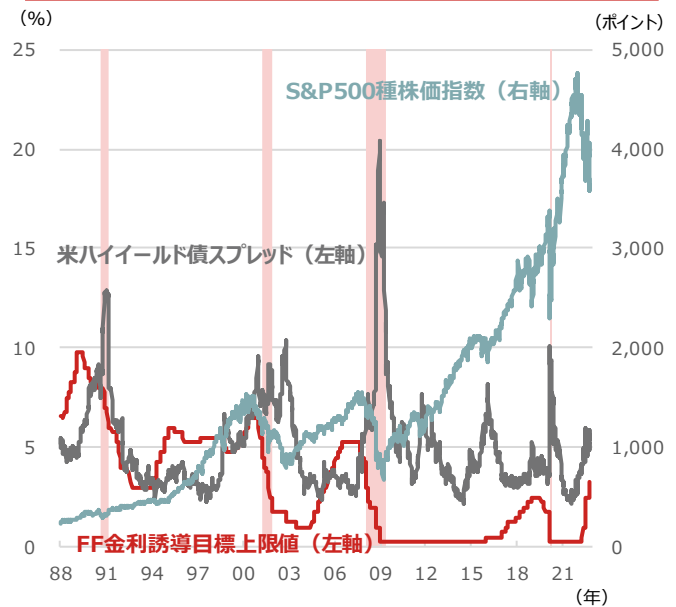
もっとも米国では、①商品価格の上昇一服、②供給網の改善、③過剰在庫による値下げ圧力、④住宅市場の軟化、⑤賃金の伸び鈍化、などインフレ鈍化の兆しがみられることは支援材料です。投資家心理や待機資金とみられる米MMF（マネー・マーケット・ファンド）残高をみると、市場は過度な悲観状態にあるといえ、米利上げの「嵐」に一巡感が広がれば、今回も中間選挙後の株価上昇に期待が持てるのではないのでしょうか。

米中間選挙直前から翌年末のS&P500種株価指数



期間：1946年～2018年における過去19回の中間選挙年10月末～翌年（大統領選前年）末のS&P500種株価指数の平均を指数化、月次
 ・大統領選前年末の最大値は144、最小値は101
 ・同期間の平均上昇率を上回ったケースは19回中11回
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

FF金利・米ハイールド債スプレッド・S&P500



期間：(FF金利誘導目標上限値とS&P500) 1988年1月8日～2022年10月19日、週次
 (米ハイールド債スプレッド) 1988年1月8日～2022年10月18日、週次
 ・米ハイールド債スプレッドは米10年国債利回りとの差、CSI BARC Indexを使用
 ・網掛けは米景気後退局面
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。